

# さんま通信

春

厚生中央病院だより 第29号 2012年

## 7階南病棟を紹介します

7階南病棟 看護師主任 原口美由紀

皆さんこんにちは。今回は、7階南にある総合内科病棟を紹介させていただきます。病棟が7階にあるだけに眺めはとていいです。病室によっては、天気の良い日には、富士山がきれいに見えます。特に明け方や夕暮れの富士山は、鮮明にその姿を映し出し、存在の大きさを感じることが出来ます。その眺めを見ながら、医師9名、看護師21名、助手2名、病棟クラーク1名で勤務しています。スタッフは比較的同年代が多いこともあり、とてもアットホームで雰囲気の良い病棟です。医師は、神経内科・血液内科・呼吸器内科・糖尿病などの専門医が多く、幅広い年代の患者様が入院しています。下は20代から、上は100歳を越える方もいらっしゃいます。高齢化社会に伴って100歳を越える方でも、治療後元気に退院していく姿も決して珍しくはありません。

また、検査や治療のための短期間の入院患者様も多く、入院自体が初めての患者様に対しても、病気に対する不安、治療に対する不安が少しでも緩和されるように、検査や治療のスケジュールを適宜お伝えし、少しでも疑問点があれば、医師に相談し説明を行うよう心がけています。

スタッフ全員が、患者さま中心で物事を考え行動し、思いやりをもちながら仕事に取り組みせて頂いています。

患者様にとって少しでも快適な入院生活を送れる様に、私たちは考えて治療、看護を行っているもので、疑問などございましたら、気兼ねなくご相談ください。



### 目次 contents

7階南病棟を紹介します ..... 1

がんを予防できる唯一のワクチン！  
… 「子宮頸がん予防ワクチン」について ... 2~3

地域健康フェスティバル2012を開催しました ... 4

どうして  
さんま通信なの？

目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくないと。即座に『さんまは目黒に限る！』  
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# がんを予防できる唯一のワクチン！ 「子宮頸がん予防ワクチン」について

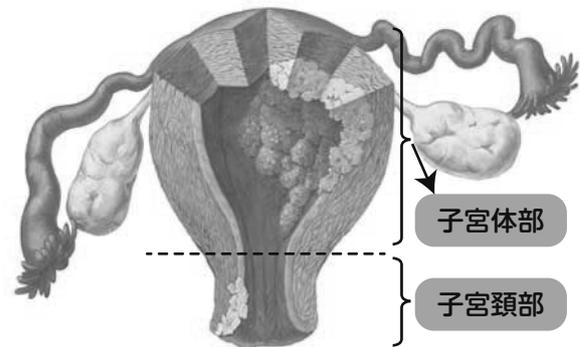
産婦人科医師

幾石尚美

## 1. 子宮頸がんが増えている現実を…

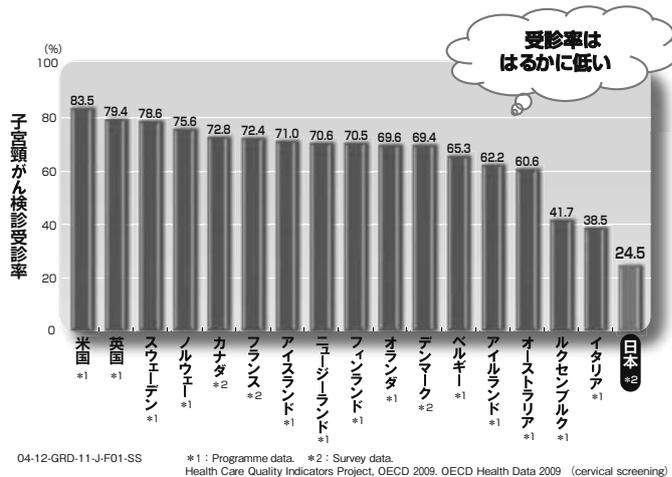
「がん」と聞くと、高齢者の病気…と思われるがちです。しかし今や、「子宮頸がん」の患者数は、若い女性の女性特有のがんの第1位になっており、身近な病気となっています。子宮頸がんとは、どんな病気でしょうか？図①に示すように、女性の骨盤内には、中央には子宮、その両側には卵巣・卵管があります。子宮本体を「子宮体部（たいぶ）」・腔側の部分を「子宮頸部（けいぶ）」と呼び、その子宮頸部に出来るがんを「子宮頸がん」と言います。ここでは、子宮頸がんとその予防ワクチンについてご紹介致します。日本の子宮頸がんの罹患数は、1年間に約10,000人で、特に20～30歳代の女性においてここ10年余りの間に2倍以上に増えています（図②）。さらに死亡数は、1年間に約3,500人で、1日約10名の女性が命を落としています。

子宮がんとは、何でしょう？



図①

## 世界各国の子宮頸がん検診受診率 (OECD加盟国における20～69歳の女性、2006年)



04-12-GRD-11-J-F01-SS \*1: Programme data. \*2: Survey data. Health Care Quality Indicators Project, OECD 2009. OECD Health Data 2009 (cervical screening)

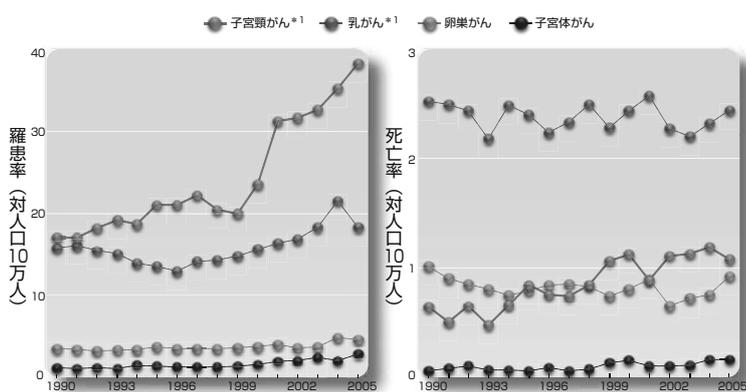
図② 日本は24.5%で欧米諸国の70～80%と比べて、極めて低い受診率であることがわかります。



## 2. 子宮頸がん検診は大切です。

「20歳を過ぎたら子宮頸がん検診」…は、日本の自治体では住民に呼びかけています。図③に示すように世界各国を見ると、日本は先進国ですが、子宮頸がん受診率が、欧米の先進国に比べ半分以下となっています。これは大変残念なことです。子宮がん検診を受けることで、がんの早期発見が出来る、しかし日本はそれが実践できていないため、罹患数・死亡数が増えているのです。子宮頸がんの自覚症状は、初期ではほとんど症状がありません。定期的のがん検診を受けることで、健康な状態を維持し、健康管理をすることが一番大切です。がんであっても、可能な限り初期に発見できるよう、検診に対する意識を高めることが大切です。

### 日本における20～30歳代の女性特有のがんの罹患率・死亡率



04-12-GPD-11-J-F01-SS

国立がんセンターがん対策情報センター 地域癌登録全国推計による癌罹患データ(1975年～2005年)より作図  
国立がんセンターがん対策情報センター 人口動態統計による癌死亡データ(1958年～2007年)より作図

図③

日本の20歳から39歳の女性特有のがんの罹患率と死亡率の年次推移です。

子宮頸がんと乳がんの罹患率は共に増加傾向にあり、特に2000年以降の子宮頸がんの発症率の増加は、著しいものがあります。

また、子宮頸がんによる死亡率は、乳がんに次いで第2位で、徐々に増加の傾向を示しています。

日本における子宮頸がんは、発症年齢の低下(若年化)と罹患患者数の急激な増加がみられ、対策が急務であると考えられます。

## 3. 子宮頸がんの原因、HPV (ヒトパピローマウイルス) とは…?

子宮頸がんの原因の90%以上は、HPV (ヒトパピローマウイルス) といわれています。このウイルスは、日常的なウイルスですが、性交渉を介して女性の子宮頸部の細胞に感染が持続すると、細胞の中で変化が起こり、がんが発生すると言われていています。HPVの中で子宮頸がんになるリスクの高いタイプの「型」が約15種類あります。特に16型・18型は高リスクHPVの代表で、子宮頸がんの65%を占めると言われています。また、子宮頸がんの他に外陰部・膣のイボの原因と言われているHPV6型・11型は低リスクHPVの代表です。

## 4. 子宮頸がん予防ワクチンの接種を推奨します。

高リスクHPV16型・18型に対する免疫を作ることで、70%以上子宮頸がんの予防ができます。現在日本では2種類のワクチンがあり、1つには16型・18型の「2価ワクチン」、低リスクHPV6型・11型も含む「4価のワクチン」です。4価ワクチンは、性交渉の経験をもつ前の女性に接種することで、子宮頸がんの発生を100%予防できると言われています。現在日本で、がんを予防できるワクチンは、この「子宮頸がん予防ワクチン」のみです。

当院では、本年3月から「子宮頸がん予防ワクチンの専門外来」を開設致しました。当院では4価ワクチンを扱っています。火曜日14:00～16:00及び土曜日10:00～11:00の完全予約制です。ワクチンの接種スケジュールは初回接種後、2か月後、6か月後の全3回で、接種費用は1回あたり16,800円です。目黒区の中학생は、公費助成の対象となっており、当院はその接種対象施設となっています。また、接種対象年齢は中学1年生から45歳としています。この機会に、子宮頸がんについて改めて考えてみる機会を作ってみませんか? 詳細は、当院のH.P.をご覧ください。

